# 高校国語班　授業実践のまとめ

～「書くこと」への意欲を高める工夫（グループ学習の導入、ワークシートの活用等）～

～一斉指導と個別指導の使い分け～

## 「相互作用を活かした『書くこと』の指導の工夫」

〈授業者〉　群馬県立桐生南高等学校　教諭　根岸　大輔

○書くためには、まず豊かなイメージをふくらませる工夫が必要である。この点において、ロールプレイやグループ学習が有効な手立てであることを確認できた。生徒たちには、他者との意見交換が自分の発想をふくらませたり、自分の発想が他者を刺激したりする相互作用を体験させることができた。

○文章を書く段階で、生徒が混乱してしまい、全体指導の時間（教師からの指示）が多くなってしまった。生徒各自の作業を明確し、個別指導の時間を確保するために、文章例や手順を明確に示すことが重要である。

○今回の授業では「読むこと」と「書くこと」の関連も考えて実践に取り組んだ。自己の内面にあるものを言語化する作業を通じて、書かれたものには作者の深い意図があることを実感させたい。今後も「書くこと」の工夫を実践し、言語感覚を磨き合いながら「読むこと」にもつながる指導を展開していきたい。

## 「自分で調べたことを、自分の言葉でまとめていく」

### レポート作成とプレゼンテーション

〈授業者〉　群馬県立勢多農林高等学校　教諭　篠原真美子

○レポート作成手順に沿ったワークシートを作成・活用し、自分の学科の説明レポートを作成させた。また、そのレポートを他学科の生徒や一般の方々に理解してもらうためのものと位置づけて、相手を意識したレポート作成をし、さらにプレゼンテーションを行うこととした。

○少人数での授業ということで、レポート作成の途中段階で個別指導をしていった。今後は個別指導と並行して、２・３名によるグループ学習の導入も考えたい。教師のアドバイスをきっかけに、猛烈にペンが走り始める生徒もいた。個別に指導助言ができるという少人数展開のメリットを活かすことができた。

○単元の仕上げに、各自がまとめたレポートのプレゼンテーションを行った。小道具での演出・発表方法の工夫など、生徒は相手を意識した話し方を工夫していた。

○発表することで、相手に理解してもらう体験ができたことは、「文を書く」ことに対する自信に繋がったようだ。自分の文章を受け入れてもらう経験をしたことによって、次への学習意欲を喚起したようだった。

担当指導主事　高校教育研究Ｇ　上原　清司